海外の畜産物の需給動向

牛　肉

米　国

26年９月の牛肉卸売価格は前年同月をやや下回る

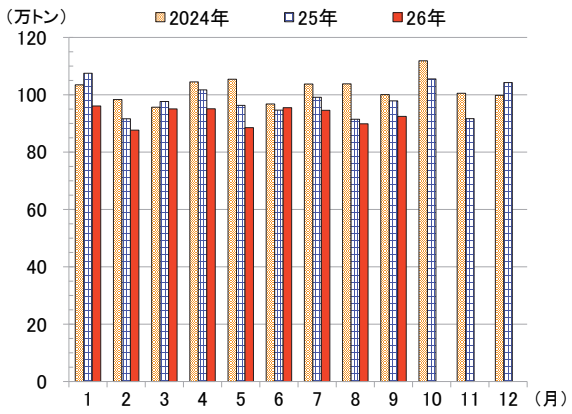
26年９月の牛肉生産量は前年同月比5.5%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年９月のフィードロット導入頭数は177万7000頭（前年同月比12.1%減）とかなり大きく減少した。出荷頭数も152万4000頭（同6.6%減）とかなりの程度減少し、同年10月１日時点のフィードロット飼養頭数は1137万2000頭（同0.4%減）とわずかに減少した。フィードロットへの導入頭数の減少は、生産者による牛群再構築に向けた肉用繁殖後継牛の留保による影響もあると考えられている。

同年９月の牛と畜頭数は、230万3000頭（同6.6%減）とかなりの程度減少した。同月の１頭当たり枝肉重量は403.7キログラム（同1.1%増）とわずかに増加したものの、同月の牛肉生産量は92万5000トン（同5.5%減）とやや減少した（図１）。

26年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から３万4000トン引き下げた1125万トン（前年比4.6%減）と見込んでいる。また、27年の牛肉生産量は、1119万4000トンと26年からわずかに減少すると予測している。

図１　牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

26年９月の牛肉卸売価格は前年同月をやや下回って推移、肥育牛価格もかなりの程度下回る

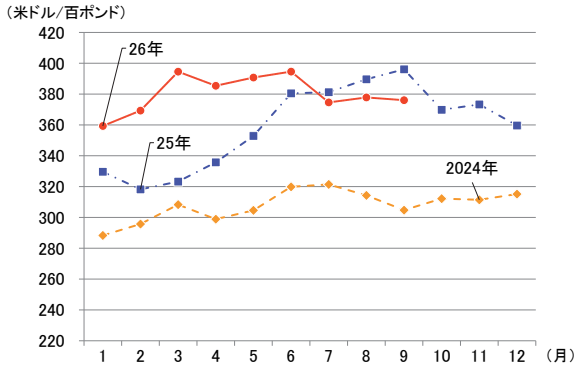
米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年９月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー(注1)）は、100ポンド当たり376.0米ドル（１キログラム当たり1314円：１米ドル＝158.54円(注2)、前年同月比5.1%安）と前年同月をやや下回った（図２）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同222.0米ドル（同776円、同7.5%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図３）。

肥育牛価格は７月に大きく下落し、その水準が継続している状況にある。その背景には、

米国大手パッカーによる牛肉処理施設の稼働率調整の動きがあるとみられており、肥育牛の供給がひっ迫しているものの、加工能力が低下していることにより、パッカー側の肥育牛購買需要が弱まってきていることが価格下落に影響していると考えられる。

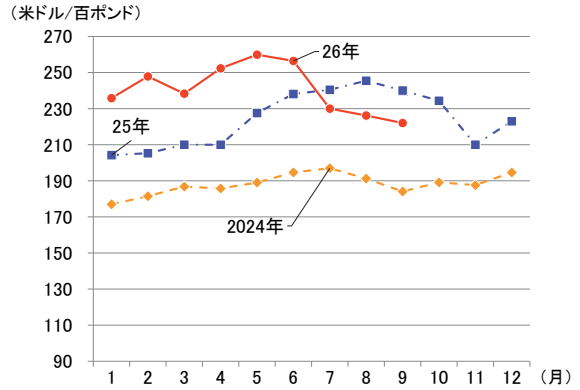
（注１）各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図２　牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注１：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
注２：チョイス級、600～900ポンド。

図３　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。

26年８月の牛肉輸出量は前年同月比3.6%増

USDA/ERSによると、2026年８月の牛肉輸出量は８万9709トン（前年同月比3.6%増）とやや増加した（表）。増加の要因として、韓国向けの輸出が２万4300トン（同16.0%増）、台湾向けの輸出が9497トン（同37.9%増）と大幅に増加したことが挙げられる。韓国向けの輸出は、同国で豪州産牛肉に対するセーフガードが７月に発動し、豪州産牛肉の輸出が減少したことで、代替として米国産牛肉の引き合いが強まったこととされている。なお、米国産牛肉の韓国向けの関税は、米韓自由貿易協定（FTA）により26年から無税となっている。また、中国向けは、同年５月15日に米国内の牛肉輸出認可施設の登録更新（注３）が行われ、輸出量は徐々に回復しており、26年８月も3258トン（同約3.9倍）となっている。米国における牛肉生産量の減少や価格の上昇に伴う価格競争力の低下などにより、同年１～８月の累計は前年同期を下回っているものの、USDAは、予測を上回る水準で推移していると評価しており、26年の牛肉輸出量の予測は前月と同じ106万3000トン（前年比9.1%減）としている。

（注３）５年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年３月以降、GACCによる牛肉の輸出施設の大部分について未更新の状況が続いていた。詳細については、海外情報「米中は農畜産物貿易の拡大に合意、牛肉輸出認可施設の登録も更新（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004361.html）をご覧ください。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年8月	26年8月	前年同月比（増減率）	構成比	26年（1～8月）	前年同期比（増減率）
韓国	20,955	24,300	16.0%	27.1%	181,591	▲9.5%
日本	23,213	18,734	▲19.3%	20.9%	164,109	▲16.9%
台湾	6,885	9,497	37.9%	10.6%	55,379	7.2%
メキシコ	9,559	9,375	▲1.9%	10.5%	79,727	▲13.0%
カナダ	8,130	6,991	▲14.0%	7.8%	61,896	▲14.6%
香港	4,800	3,625	▲24.5%	4.0%	44,585	49.1%
中国	845	3,258	385.6%（約3.9倍）	3.6%	10,794	▲83.9%
その他	12,243	13,928	13.8%	15.5%	116,023	9.1%
合計	86,630	89,709	3.6%	100.0%	714,104	▲12.6%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部）

E　U

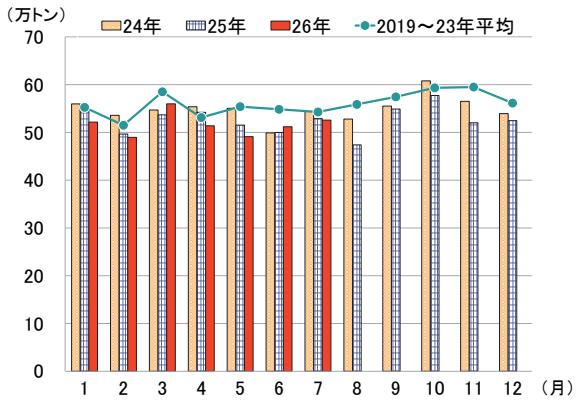
牛肉輸入量の増加傾向が続く

26年７月の牛肉生産量は前年同月比0.6%減

欧州委員会によると、2026年７月の牛肉生産量（EU27カ国）は52万5710トン（前年同月比0.6%減）とわずかに減少した（図１）。１頭当たり枝肉重量は305.1キログラム（同1.5%増）とわずかに増加したものの、飼養頭数の減少により牛と畜頭数が172万3210頭（同2.1%減）とわずかに減少したことが影響した。同年１～７月までの累計生産量でも、前年同期比1.7%減とわずかに減少した。

今後の見通しについて欧州委員会は、一部では未経産牛の留保の動きがみられるものの、27年も生産量の減少傾向が続く可能性があると見込んでいる。

図１　牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

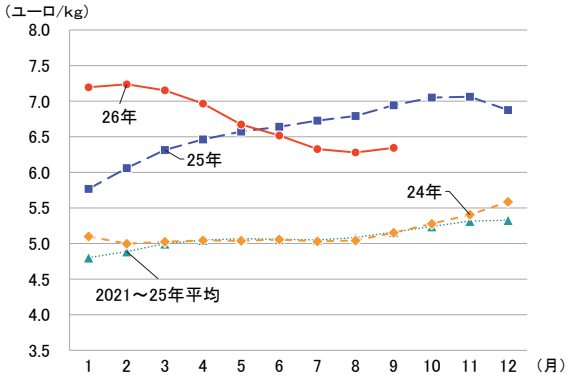
26年６月以降の枝肉卸売価格は前年同月を下回って推移

2026年９月の牛枝肉平均卸売価格(注1)は、１キログラム当たり6.34ユーロ（1127円、１ユーロ:177.76円(注2)、前年同月比8.6%安）と過去５カ年平均を上回る水準であるものの、

４カ月連続で前年同月を下回った（図２）。供給のひっ迫が価格を下支えする一方、過去５年平均を上回る水準を維持しているものの消費者の高値を敬遠する動きにより上値が抑えられている。

（注１）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合が平均的（５段階中３）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図２　牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」
注：EU参考価格。

26年１～８月の輸出量は増加、輸入量もブラジル産を中心に増加

2026年１～８月の牛肉輸出量は、30万3060トン（前年同期比5.0%増）とやや増加した（表１）。特に欧州産牛肉が強みを持つ近隣のトルコやノルウェー向けの冷蔵品の輸出が増加している。

また、同期間の牛肉輸入量は、21万5889トン（同9.6%増）と、価格競争力のあるブラジル産を中心にかなりの程度増加した（表２）。なお、26年５月１日よりEUとメルコスールの暫定貿易協定（iTA）が発効し、牛肉に対する新たな関税割当数量が設定されている（注３）。

一方、欧州委員会は、EUが規制している畜水産物の生産段階における抗菌剤使用について、要件（注４）の遵守を確保するために必要な措置が実施されていることを示す情報が

表１　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2025年８月	26年８月	前年同月比（増減率）	25年（１～８月）	26年（１～８月）	前年同期比（増減率）
冷蔵	英国	9,042	11,149	23.3%	93,878	86,683	▲7.7%
	トルコ	4,618	9,047	95.9%	39,191	61,254	56.3%
	アルジェリア	2,774	2,843	2.5%	19,662	20,435	3.9%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,853	2,900	1.6%	17,360	17,193	▲1.0%
	ノルウェー	1,015	2,084	105.3%	4,977	15,663	214.7%
	その他	3,938	3,231	▲18.0%	30,824	27,788	▲9.8%
	合計	24,240	31,254	28.9%	205,892	229,016	11.2%
冷凍	英国	4,040	4,534	12.2%	40,797	37,375	▲8.4%
	カナダ	248	846	241.1%	3,812	4,142	8.7%
	ガーナ	523	555	6.1%	5,493	3,595	▲34.6%
	日本	33	123	272.7%	674	3,237	380.3%
	香港	81	403	397.5%	2,516	2,606	3.6%
	その他	3,101	3,275	5.6%	29,570	23,089	▲21.9%
	合計	8,026	9,736	21.3%	82,862	74,044	▲10.6%
冷蔵・冷凍計		32,266	40,990	27.0%	288,754	303,060	5.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。
注２：2026年５月に日本向け冷凍牛肉輸出量2,459トン（主にイタリアから）が計上されているが詳細不明。

得られていないとして、26年９月３日からブラジル産牛肉の輸入を停止しており、同月以降の輸入量に影響が生じるとみられる(注5)。

（注３）詳細については、海外情報「EUメルコスール貿易協定、５月１日から暫定適用開始（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004336.html）をご参照ください。

（注４）（１）ヒトに対する感染症の治療に使用が限定される抗菌剤が使用されていないこと、（２）成長促進目的での抗菌剤投与が行われていないこと。
（注５）詳細については、海外情報「欧州委員会、抗菌剤使用に関する第三国リストからブラジルを削除（EU、ブラジル）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004381.html）をご参照ください。

表２　輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2025年８月	26年８月	前年同月比（増減率）	25年（１～８月）	26年（１～８月）	前年同期比（増減率）
冷蔵	英国	5,109	4,188	▲18.0%	36,969	39,205	6.0%
	アルゼンチン	3,421	4,226	23.5%	33,833	35,427	4.7%
	ブラジル	1,636	2,623	60.3%	12,844	20,566	60.1%
	ウルグアイ	1,177	1,766	50.0%	19,004	18,476	▲2.8%
	米国	746	768	2.9%	8,345	8,244	▲1.2%
	その他	1,398	1,623	16.1%	10,187	12,094	18.7%
	合計	13,487	15,194	12.7%	121,182	134,012	10.6%
冷凍	ブラジル	4,846	7,051	45.5%	32,993	45,637	38.3%
	英国	1,688	1,308	▲22.5%	14,327	12,661	▲11.6%
	ウルグアイ	1,628	564	▲65.4%	10,946	8,157	▲25.5%
	ナミビア	476	1,211	154.4%	3,853	5,788	50.2%
	アルゼンチン	391	232	▲40.7%	5,910	3,385	▲42.7%
	その他	1,401	508	▲63.7%	7,852	6,249	▲20.4%
	合計	10,430	10,874	4.3%	75,881	81,877	7.9%
冷蔵・冷凍計		23,917	26,068	9.0%	197,063	215,889	9.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

（調査情報部）

豪　州

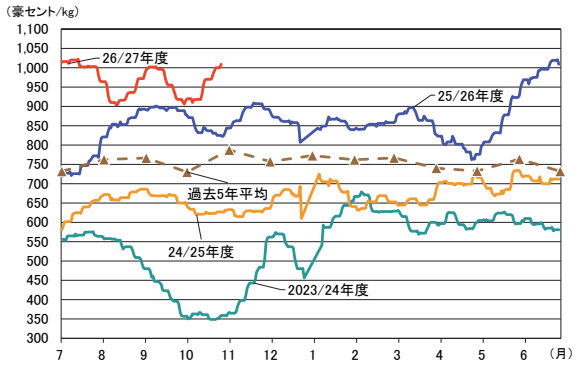
豪州産牛肉輸出は堅調も、ブラジルとのさらなる競争激化の観測

若齢牛価格は降雨により上昇傾向

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、10月中旬より上昇に転じ、直近の10月26日時点では１キログラム当たり1009豪セント（1137円：１豪ドル＝112.67円(注1)）となった。（図１）。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図１　EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の 加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

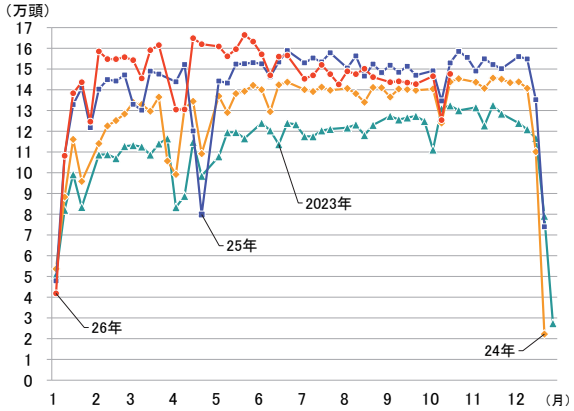
現地報道によると、９月は豪州東海岸全域で乾燥傾向が続いたものの、10月に入ると、クイーンズランド州およびニューサウスウェールズ州北部の主な肉用牛生産地域で、10月の平均降水量の2.5～６倍となる降雨が記録された。この降雨を受け、牧草の生育改善が見込まれたことから、牧草肥育業者による若齢牛の買い付け意欲が高まったことに加え、豪雨による輸送の混乱や家畜市場の閉鎖などから牛の供給がひっ迫し、価格上昇につながったとされる。

今後の見通しについて、現地アナリストは、降雨と牛の供給ひっ迫を背景に、若齢牛価格の上昇が11月初旬まで続く可能性があると分析している。一方で、ブラジル産牛肉との競合による輸出価格の下落圧力や豪ドル高により、食肉加工業者の採算が圧迫されており、と畜用牛（成牛）の価格上昇の余地は限定的との見方もある。このため、牛価格全体の動向は、天候要因による国内需給の変化に加え、輸出需要や為替相場の動向にも左右されるとみられている。

と畜頭数は低水準で推移、降雨で生産者の出荷意欲が減少

2026年10月第３週の成牛と畜頭数は、14万7660頭（前年同期比3.5%減）と前年同期を下回って推移した（図２）。前述の豪雨に伴う輸送の混乱や家畜市場の閉鎖などにより、牛の出荷が減少した影響とみられる。また、豪州北部地域の食肉加工業者は、「生産者の間では、降雨により今後数週間の牛の出荷意欲が弱まっている」と報告していることから、と畜頭数の大幅な増加は見込みにくく、当面は現行水準での推移または減少が見込まれている。

図２　成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：成牛のみ（子牛は含まない）。
注２：年末および３～４月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

26年９月の牛肉輸出量は底堅く推移も、ブラジルとの競合に懸念

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年９月の牛肉輸出量は13万2146トン（前年同月比4.9%減）と前年同月を下回ったものの、年初からの累計輸出量（１～９月）は120万9829トン（前年同期比7.3%増）と、年初来の累計ベースで過去最高を更新する状況が続いている（表）。

輸出先別に見ると、米国向けは４万3480トン（前年同月比3.7%増）と堅調に推移したほか、日本向けも２万7107トン（同19.1%増）と大幅に増加し、19年７月以来の高水準を記録した。一方、韓国および中国向けは、両国による豪州産牛肉に対するセーフガードの発動を受けて減少しており、特に今年から新たなセーフガード措置(注2)が講じられた中国向けは、年累計でも大幅な減少となっている。

現地報道によると、豪州の食肉加工業者は、27年１月１日から中国向け牛肉に対する関税が撤廃されることを見据えて準備を進めているが、中国向け輸出用として認定された冷蔵・冷凍倉庫の保管能力は、すでに限界に近づいているとされている。このため、一部の食肉加工業者では、と畜スケジュールの遅延や、出荷予定牛の肥育期間の延長に伴う生産コストの増加が生じているという。特に、中国を主要顧客とする高品質な豪州Wagyuの取扱事業者は、中東情勢の悪化を背景に中東など代替市場への振り替えが容易ではなく、対応に苦慮しているとされている。

また、引き続きブラジルの動向も懸念材料となっている。MLAによると、ブラジル産牛肉の米国向け輸出は、前年を大幅に上回るペースで推移しており、競争の激化を背景に、豪州産加工用牛肉（90CL）の米国向け輸出価格には、下落圧力がかかっているとされる。

（注２）詳細については、海外情報「中国、豪州産牛肉に対しセーフガードを発動（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004383.html）をご参照ください。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年９月	26年９月	前年同月比（増減率）	26年（１～９月）	前年同期比（増減率）
米国	41,918	43,480	3.7%	378,645	15.2%
韓国	21,247	17,927	▲15.6%	206,683	25.2%
日本	22,759	27,107	19.1%	203,161	11.0%
東南アジア	12,573	10,738	▲14.6%	90,427	▲13.8%
中国	20,741	7,778	▲62.5%	163,171	▲19.7%
中東	4,426	6,112	38.1%	35,693	22.0%
ＥＵ	2,291	2,242	▲2.1%	21,882	22.4%
その他	13,057	16,762	28.4%	110,167	15.8%
輸出量合計	139,012	132,146	▲4.9%	1,209,829	7.3%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
注３：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

（調査情報部）

豚　肉

米　国

豚飼養頭数は減少、豚肉生産量・卸売価格ともに前年を下回る

26年９月の豚飼養頭数は前年を下回る

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年９月１日時点の豚飼養頭数は、7430万2000頭（前年比1.5%減）と前年をわずかに下回った（表１）。内訳を見ると、繁殖豚は587万5000頭（同1.0%減）と、20年後半以降、前年割れが続いている。肥育豚はすべての体重区分で前年を下回り、全体では6842万7000頭（同1.5%減）と前年からわずかに減少した。また、６～８月期の産子数については、分娩母豚頭数は288万6000頭（前年同期比2.7%減）とわずかに減少したものの、１腹当たり産子数が12.0頭（同1.2%増）となったことから、3450万8000頭（同1.5％減）とわずかな減少にとどまった。

表１　豚飼養頭数の推移

（単位：万頭）

区分	2024年	25年	26年	前年比（増減率）
総飼養頭数（９月１日時点）	7,549	7,544	7,430	▲1.5%
繁殖豚	604	594	588	▲1.0%
肥育豚	6,945	6,950	6,843	▲1.5%
50ポンド（23kg）未満	2,219	2,221	2,187	▲1.6%
50～119ポンド（23～53kg）	2,013	2,028	1,998	▲1.5%
120～179ポンド（54～81kg）	1,445	1,436	1,414	▲1.5%
180ポンド（82kg）以上	1,267	1,265	1,244	▲1.6%
分娩母豚頭数（６～８月）	299	297	289	▲2.7%
産子数（６～８月）	3,498	3,504	3,451	▲1.5%
１腹当たり産子数（６～８月）（頭）	11.7	11.8	12.0	1.2%

資料：USDA「Hogs and Pigs」
注１：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。
注２：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

26年９月の豚肉生産量は前年同月比2.8%減

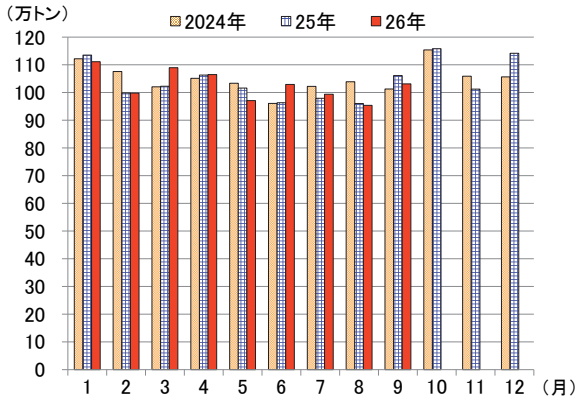
USDA/NASSによると、2026年９月の豚と畜頭数は、1063万9800頭（前年同月比3.1%減）と前年同月をやや下回った。１頭当たりの平均枝肉重量は97.1キログラム（同0.5%増）とわずかに増加し、と畜頭数の減少を一部相殺したことで、同月の豚肉生産量は103万970トン（同2.8%減）とわずかな減少にとどまった（図１）。

９月の肥育豚価格は、100ポンド当たり65.00米ドル（１キログラム当たり227円：１米ドル＝158.54円(注1)、同13.7%安）と

前年同月に比べかなり大きく下落し、前月比でも6.4％安とかなりの程度下落した（図２）。同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー(注2)）は、同89.51米ドル（同313円、同20.9％安）と前年同月を大幅に下回り、前月比でも9.4％安となった（図３）。こうした下落要因についてUSDAは、「豚肉価格の下落は、主にバラ肉およびハム価格の低迷によるものであり、ベーコンなどに使われるバラ肉需要は、観光や外食需要との関連が強く、インフレの進行や燃料価格の高騰により減少する傾向がある」としている。

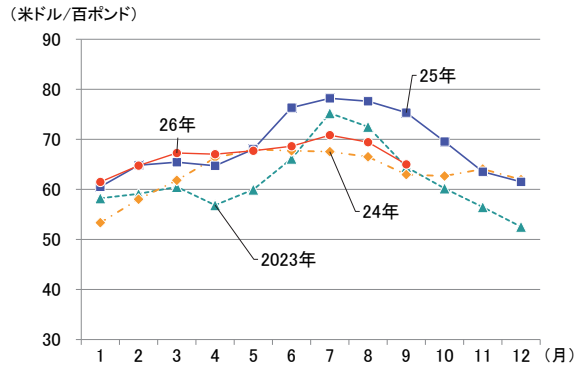
（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。
（注２）各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図１　豚肉生産量の推移



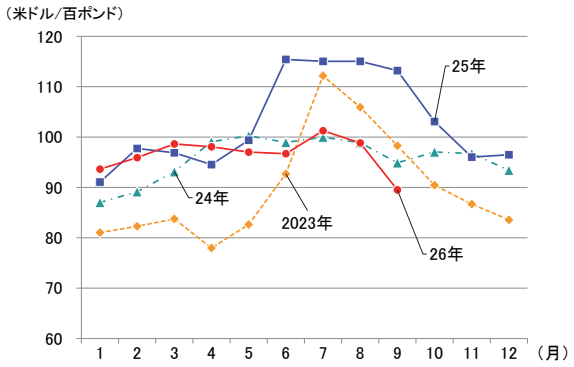
資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

図２　肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注１：生産者平均価格。
注２：2026年９月は暫定値。

図３　豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注：カットアウトバリュー。

26年８月の豚肉輸出量、前年同月比4.9％減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年８月の豚肉輸出量は、23万3998トン（前年同月比4.9％減）と前年同月をやや下回った（表２）。最大の輸出先であるメキシコ向けは９万712トン（同11.1％減）とかなり大きく減少したほか、日本向けも３万2341トン（同5.4％減）とやや減少するなど、主要輸出先向けの減少が目立った。

一方、26年１～８月の累計輸出量は、210万6902トン（前年同期比1.4％増）と前年同期をわずかに上回った。しかしながら、年初の好調な輸出ペースには鈍化の兆しが見られており、メキシコの国内需要の低下に加え、輸出競合国との競争激化がその背景にあるとみられる。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年８月	26年８月	前年同月比（増減率）	輸出割合	26年（１～８月）	前年同期比（増減率）
メキシコ	102,011	90,712	▲11.1%	38.8%	800,939	0.2%
日本	34,194	32,341	▲5.4%	13.8%	339,765	13.7%
カナダ	17,692	17,630	▲0.3%	7.5%	139,341	4.7%
韓国	18,596	17,349	▲6.7%	7.4%	191,867	▲8.8%
コロンビア	12,279	16,727	36.2%	7.1%	119,371	6.9%
中国	12,952	13,289	2.6%	5.7%	110,616	▲0.6%
ドミニカ共和国	8,577	9,141	6.6%	3.9%	92,844	21.3%
ホンジュラス	6,343	7,553	19.1%	3.2%	56,508	13.0%
その他	33,517	29,256	▲12.7%	12.5%	255,652	▲10.4%
合計	246,161	233,998	▲4.9%	100.0%	2,106,902	1.4%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注１：枝肉重量ベース。
注２：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部）

カナダ

26年７月の豚総飼養頭数は前年比0.6%増、米国向け生体豚輸出も増加傾向

26年７月の豚総飼養頭数は前年同月比0.6%増、繁殖豚頭数は同1.2%増

カナダ統計局によると、2026年７月１日時点の豚総飼養頭数は1400万頭（前年同月比0.6%増）とわずかに増加した（表１）。内訳を見ると、繁殖豚は124万頭（同1.2%増）、肥育豚は1276万頭（同0.6%増）といずれも増加した。

また、カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、26年９月の豚と畜頭数は211万頭（同0.5%減）とわずかに減少したものの、同年１～９月の累計では1655万頭（前年同期比1.4%増）とわずかに増加した（図１）。

表１　豚飼養頭数の推移

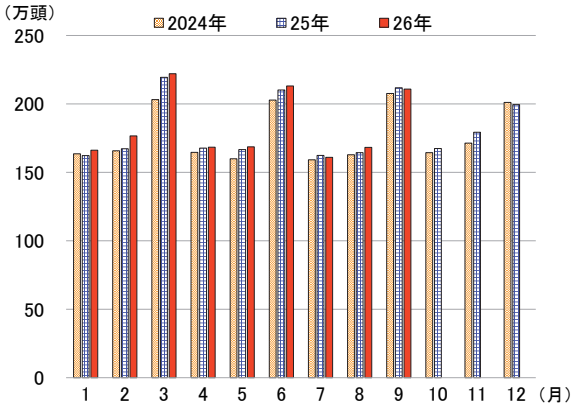
（単位：万頭）

種類	2024年	25年	26年	前年同月比（増減率）
繁殖豚	123	122	124	1.2%
肥育豚	1,277	1,269	1,276	0.6%
23kg未満	531	529	531	0.3%
23～53kg	241	244	241	▲1.3%
54～80kg	237	235	245	4.1%
81kg以上	269	261	260	▲0.4%
合計	1,400	1,392	1,400	0.6%

資料：カナダ統計局
注：各年７月１日現在。

26年のカナダの豚肉生産量について米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は、繁殖豚の生産性向上や廃用母豚のと畜頭数増、食肉処理・加工施設の処理能力の拡大によると畜頭数の増加により、219万トン（前年比1.8%増）と前年からわずかに増加すると見込んでいる。

図１　豚と畜頭数の推移（月次）

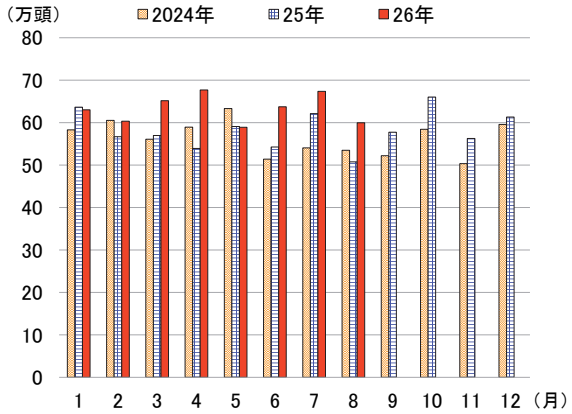


資料：AAFC「Hog Slaughterings at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

26年８月の米国向け生体豚輸出は前年同月比18.1%増

カナダ統計局によると、2026年８月のカナダから米国への生体豚輸出頭数は、60万頭（前年同月比18.1%増）と大幅に増加した（図２）。米国における豚飼養頭数が減少傾向にある中で、カナダ東部における豚飼養頭数が増加しており、米国向けの輸出を増やしているとみられる。

図２　米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：カナダ統計局
注：HSコード0103。

26年８月の豚肉輸出量は前年同月比4.4%増

カナダ統計局によると、2026年８月の豚肉輸出量は７万6120トン（製品重量ベース、前年同月比4.4%増）とやや増加し、同年１～８月の累計では67万8268トン（前年同期比4.0%減）とやや減少した（表２）。

８月の輸出量を輸出先別に見ると、最大の輸出先である米国向けは２万2958トン（前年同月比12.7%増）とかなり大きく増加した。コロンビア向けは、自由貿易協定（FTA）による関税撤廃や、現地の需要増により3051トン（同56.1%増）と大幅に増加した。一方、日本向けは円安・カナダドル高の影響を受け、１万9221トン（同3.6%減）とやや減少した。フィリピン向けは、同国におけるブラジル産の競争力が高まったことなどから、2012トン（同18.0%減）と大幅に減少した。26年のカナダの豚肉輸出量についてUSDA/FASは、133万トン（枝肉重量ベース、前年同）と見込んでいる。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年８月	26年８月	前年同月比（増減率）	構成比	26年（１～８月）	前年同期比（増減率）
米国	20,363	22,958	12.7%	30.2%	189,082	8.7%
日本	19,939	19,221	▲3.6%	25.3%	192,671	▲1.6%
メキシコ	14,389	13,626	▲5.3%	17.9%	119,618	1.8%
韓国	3,776	5,313	40.7%	7.0%	44,570	0.5%
中国	3,394	3,520	3.7%	4.6%	35,118	▲5.2%
コロンビア	1,954	3,051	56.1%	4.0%	18,723	20.3%
台湾	2,709	2,893	6.8%	3.8%	26,682	▲5.4%
フィリピン	2,454	2,012	▲18.0%	2.6%	19,985	▲61.2%
その他	3,910	3,526	▲9.8%	4.6%	31,819	▲25.6%
合計	72,888	76,120	4.4%	100.0%	678,268	▲4.0%

資料：カナダ統計局
注１：HSコード0203。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部）

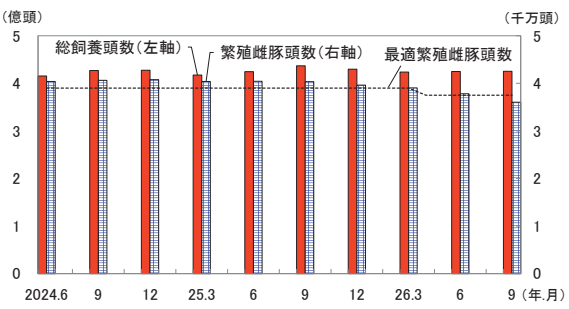
中　国

繁殖雌豚頭数が最適水準下回る

26年９月末の繁殖雌豚頭数は最適水準をやや下回る

中国農業農村部によると、2026年９月末時点の繁殖雌豚頭数は、3602万頭（前年同月比10.7%減、前期比4.7%減）と、前年同月からかなりの程度、前期からやや減少した（図１）。この頭数は、同部が最適な飼養水準（最適水準）とする3750万頭を3.9%下回っている。

図１　豚飼養頭数の推移



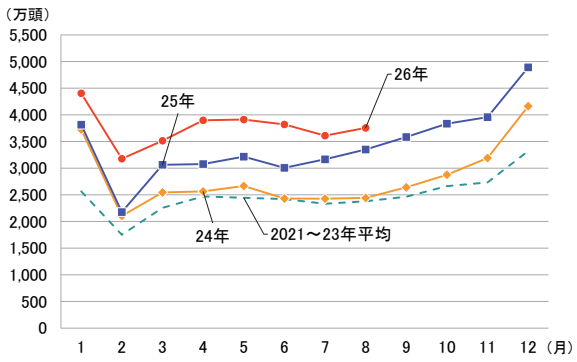
資料：中国国家統計局
注１：四半期ごとの公表値。
注２：2026年５月14日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方案」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を3900万頭程度から3750万頭程度に引き下げた。

26年８月の豚と畜頭数は前年同月比12.1%増

2026年８月の豚と畜頭数は、3755万頭（前年同月比12.1%増）とかなり大きく増加した（図２）。

中国農業農村部が26年10月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年９月）」（以下「月報」という）によると、前年第４

図２　豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部
注：年間２万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約３割）。

四半期以降の繁殖雌豚削減方策の影響により、と畜頭数の増加率は鈍化すると見込まれている。

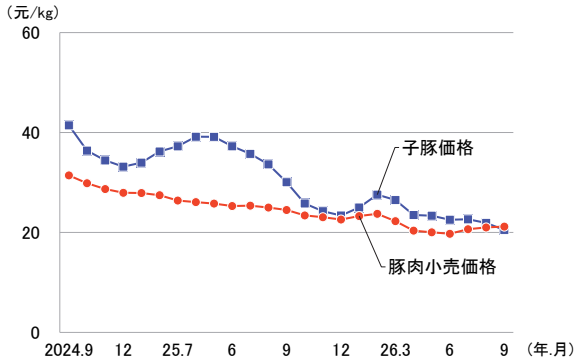
26年９月の豚肉小売価格は前月比0.8%高

2026年９月の豚肉小売価格は、１キログラム当たり21.2元（508円：１元＝23.97円(注１)、前年同月比13.6%安、前月比0.8%高）となった（図３）。また、豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は、同20.5元（491円、前年同月比31.8%安、前月比6.4%安）となった。月報によると、豚肉価格が生産コストを下回る水準で推移していることから、農家の補充意欲が低く、子豚需要が減少して価格下落につながったとしている。

また、今後について、月報では、繁殖雌豚の削減を背景に豚肉生産量の伸びが鈍化するものの、第４四半期後半には、気温低下に伴う加工肉需要の増加や豚肉消費の拡大により需給環境が改善することから、生体豚および豚肉価格は緩やかに回復すると予測している。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図３　豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

26年１～９月の豚肉輸入量は前年同期比27.8%減

2026年１～９月の豚肉輸入量は、56万1900トン（前年同期比27.8%減）と、前年同期から大幅に減少した。輸入先別に見ると、ロシアを除く上位７カ国の主要輸入先は前年同期を下回った（表）。業界関係者によると、中国国内の供給量が十分であることから、輸入需要は低迷したとされる。一方、ロシア産は、欧州産に対する価格優位性に加え、前年の輸入実績が低水準であった反動から、前年同期を上回って推移したとされる。

表　主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2024年	25年	26年（１～９月）	前年同期比（増減率）
スペイン	289,907	283,630	166,857	▲28.2%
ブラジル	236,989	153,564	77,791	▲38.2%
英国	61,928	71,921	47,919	▲12.7%
チリ	64,730	68,175	43,359	▲16.6%
米国	69,929	55,697	40,696	▲13.3%
ロシア	19,444	32,437	35,560	38.0%
カナダ	76,106	66,758	35,455	▲34.7%
その他	230,856	232,376	114,262	▲ 38.5%
合計	1,049,889	964,558	561,900	▲ 27.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部）

牛乳・乳製品

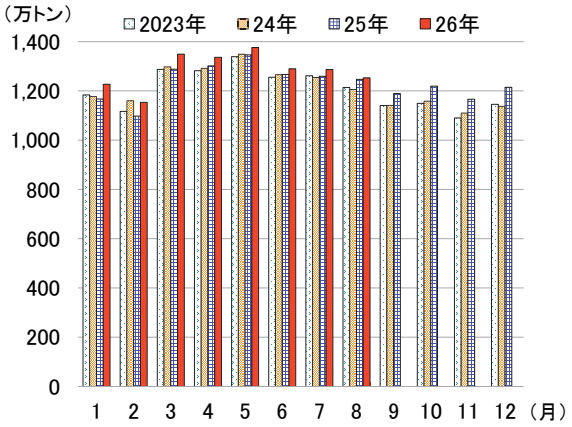
E　U

26年９月の生乳取引価格、乳製品価格はいずれも上昇基調

26年８月の生乳出荷量は前年同月比0.5%増

欧州委員会によると、2026年８月の生乳出荷量（EU27カ国）は、主要生産国の多くで前年同月を上回ったため、1253万トン（前年同月比0.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図１、表）。ただし、増加率は徐々に縮小している。前年同月割れが続いていたフランスは、194万トン（同0.1%増）と４カ月ぶりに前年同月並みに回復した。フランスの農業系政府機関であるフランス・アグリメール（FranceAgriMer）によると、猛暑による牧草生育の停滞を受けて冬季用飼料への切り替えが早まったことなどから、前年水準の生乳出荷量となったとみられる。一方、放牧主体のアイルランドは、89万トン（同8.4%減）と、干ばつの影響を受けて５カ月連続で前年同月を下回った。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注３：イタリアの2026年５月以降の数量は未公表のため、前年同月の値を用いた。

表　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：万トン）

国名	2025年８月	26年８月	前年同月比（増減率）	26年（１～８月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	272	281	3.1%	2,297	6.0%
フランス	194	194	0.1%	1,659	1.9%
ポーランド	117	117	0.3%	956	2.7%
オランダ	116	117	0.7%	962	4.0%
アイルランド	97	89	▲8.4%	662	▲2.5%
その他	450	455	1.1%	3,736	2.5%
合計	1,247	1,253	0.5%	10,271	3.0%

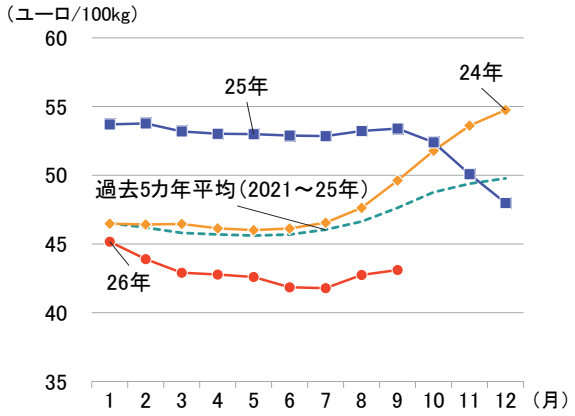
資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注３：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。
注４：イタリアの2026年５月以降の数量は未公表のため、前年同月の値を用いた。

26年９月の生乳取引価格は前月からわずかに上昇

欧州委員会によると、2026年９月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり43.11ユーロ（１キログラム当たり77円：１ユーロ＝177.76円(注)、前年同月比19.3%安）となり、前年同月を大幅に下回った（図２）。ただし、主要乳製品の価格が上昇基調で推移したことなどを背景に、生乳取引価格は安定して推移しており、前月比では0.8%高とわずかに上昇した。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図２　生乳取引価格の推移



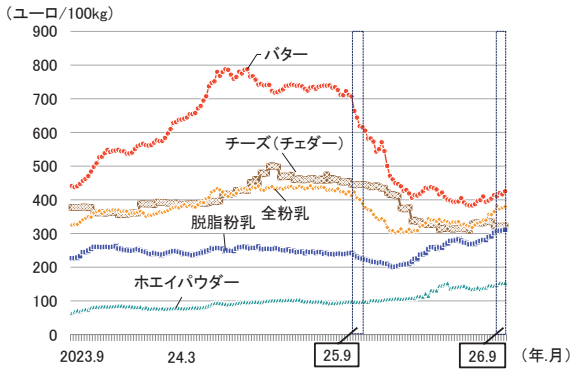
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

26年９月の主要乳製品価格は上昇基調

欧州委員会によると、2026年９月27日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、脱脂粉乳が100キログラム当たり311ユーロ（１キログラム当たり553円、前年同期比37.9%高）と前年同期を大幅に上回った。一方、バターは同425ユーロ（同755円、同30.8%安）、全粉乳は同380ユーロ（同675円、同2.3%安）、チーズは同323ユーロ（同574円、同27.6%安）と、いずれも前年同期を下回ったものの、７月以降は上昇基調で推移している（図３）。

現地報道によると、９月のバター価格は、クリーム価格の上昇に支えられ堅調に推移した。一方、国際市場ではバター価格が下落傾向にあることから、欧州産バターの価格競争力は低下したとされる。全粉乳は、26年１～７月の生産量が23万1300トン（同2.7%減）とわずかに減少する中、国際市場における取引量の増加を背景に価格が回復した。また、脱脂粉乳は、EU域内外の高たんぱく製品向けや子牛用代用乳の需要が高まり、価格が上昇しているとされる。なお、ホエイたんぱく濃縮物の価格は、製品配合の見直しなどにより９月時点ではやや落ち着いた動きとなっている。

図３　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部）

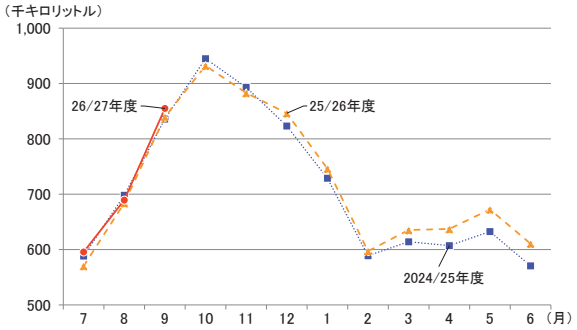
豪　州

生乳生産量はわずかに増加、輸出量はチーズを除き減少

26年９月の生乳生産量は前年同月比1.8%増

デイリー・オーストラリア（DA）が2026年９月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年９月の生乳生産量は85万5045キロリットル（88万696トン相当、前年同月比1.8%増）とわずかに増加した（図１）。

図１　月別生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は７月～翌６月。

この結果、2026/27年度（７月～翌６月）の９月までの生乳生産量は、213万9988キロリットル（220万4188トン相当、前年同期比2.2%増）とわずかに増加した。

26/27年度の生乳生産量について、豪州農業資源経済科学局（ABARES）は、26年９月に公表した「Agricultural Commodities Report」（以下「報告書」という）の中で、前年度比1.0％減の830万キロリットル（854万9000トン相当）と予測している。この理由についてABARESは、飼養管理の改善などに伴い１頭当たり乳量は増加すると見込まれるものの、飼料費などの生産コストや農地価格の上昇を背景に乳用牛の淘汰（とうた）や酪農家の廃業が進み、乳用牛飼養頭数が減少するためとしている。

26年８月の主要乳製品の輸出量、チーズを除き減少

DAが2026年10月に公表した「Dairy Export Summary」によると、同年８月の主要乳製品の輸出量は、チーズを除き前年同月から減少した（表、図２）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高いインドネシア向けが大幅に増加したものの、中国やマレーシア、シンガポール向けが減少したことにより、前年同月比10.0%減とかなりの程度減少した。全粉乳は、中国やバングラデシュ向けが大幅に減少したことにより、同37.2%減と大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、中国やマレーシア、ニュージーランド向けが大幅に減少したことにより、同33.5%減と大幅に減少した。また、チーズは、輸出量全体に占める割合が高い日本やフィリピン、タイ向けが増加したことにより、同4.9%増とやや増加した。

26/27年度の乳製品輸出量について、ABARESは報告書の中で、生乳生産量が減少する一方で、国内の乳製品需要は堅調であることから、前年度比3.0%減の63万8000トンになると見込んでいる。

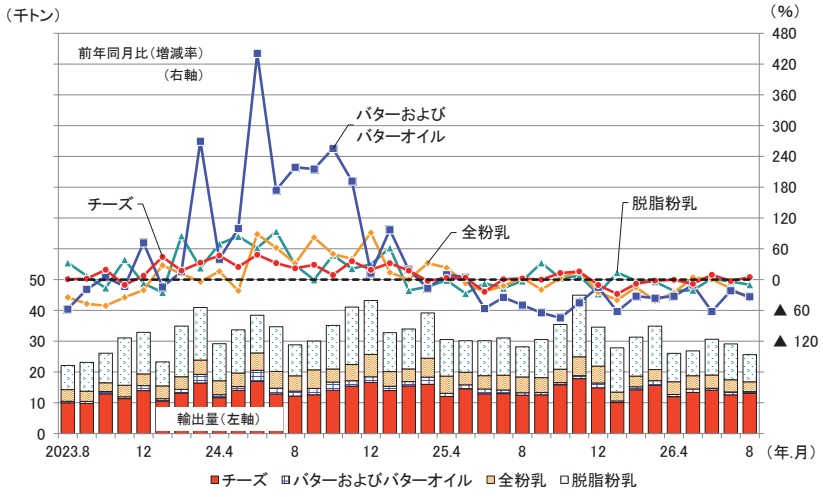
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2025年 ８月	26年 ８月	前年同月比 （増減率）	26/27年度 （７～８月）	前年度比 （増減率）
脱脂粉乳	9,792	8,810	▲10.0%	20,437	▲6.7%
全粉乳	5,120	3,215	▲37.2%	7,171	▲27.6%
バターおよびバターオイル	809	538	▲33.5%	1,481	▲26.4%
チーズ	12,449	13,055	4.9%	25,626	0.9%

資料：DA
　注：製品重量ベース。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
　注：製品重量ベース。

（調査情報部）

N Z

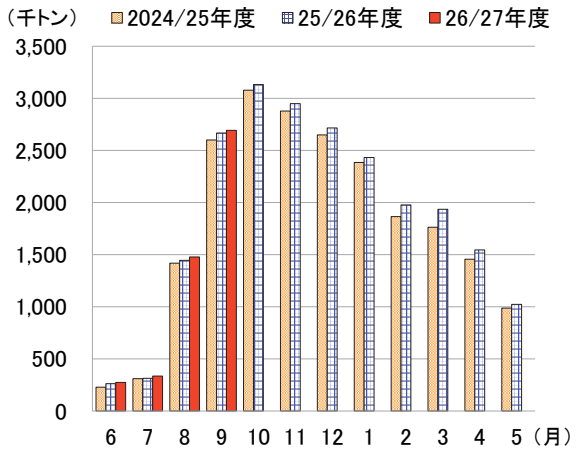
生乳生産量は９月としては過去最高を記録

26年９月の生乳生産量は前年同月比1.0%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年９月の生乳生産量は269万3000トン（前年同月比1.0%増）と、９月としては過去最高を記録し、17カ月連続で前年同月を上回った（図１）。また、26/27年度（６月～翌５月）の９月までの生乳生産量も、478万トン（前年同期比2.0%増）と前年同期を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、１）高水準の生産者支払乳価が酪農家の生産意欲の向上につながったこと、２）良好な牧草生育環境を背景に飼養頭数が増加したことーなどから、生乳生産が増加したと分析している。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」
注：年度は６月～翌５月。

26年９月の乳製品輸出量は主要４品目すべてで増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年９月の乳製品輸出量は、主要４品目すべてで前年同月を上回った（表、図２）。品目別に見ると、脱脂粉乳はインドネシア、マレーシア向け、全粉乳はアルジェリア向け、バターおよびバターオイルは中国、エジプト向け、チーズは中国向けがいずれも大幅に増加した。また、26/27年度の９月までの乳製品輸出量も、主要４品目すべてで前年同期を上回って推移している。

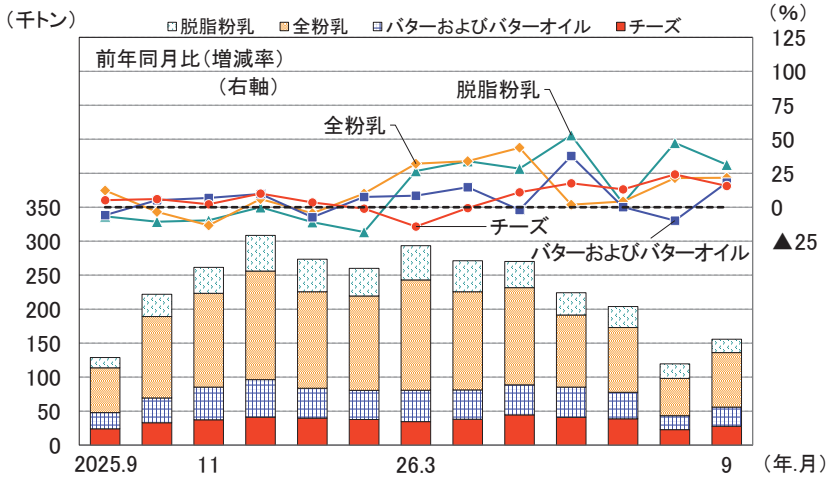
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2025年９月	26年９月	前年同月比（増減率）	26/27年度（６～９月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	15,080	19,792	31.2%	104,885	29.4%
全粉乳	65,815	80,046	21.6%	336,362	9.7%
バターおよびバターオイル	23,978	28,326	18.1%	132,143	12.2%
チーズ	23,965	27,699	15.6%	130,234	16.9%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」
注：製品重量ベース。

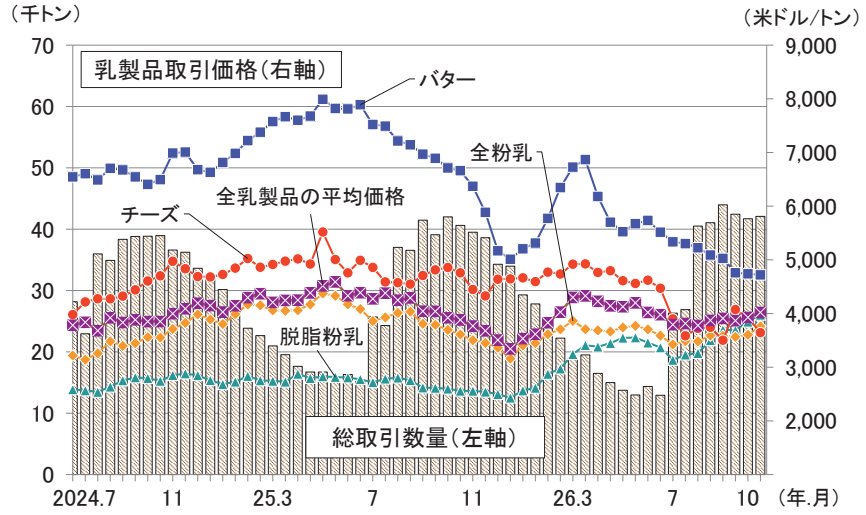
26年10月20日のGDT平均取引価格は主要２品目が前回を上回る

2026年10月20日開催のGDT(注1)平均取引価格は、主要４品目のうち脱脂粉乳、全粉乳の２品目が前回開催時（26年10月６日）を上回った（図３）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は１トン当たり4021米ドル（63万7489円、1米ドル＝158.54円(注2)、前回比2.4%増）とわずかに上昇した。

NZXによると、バターやチーズは供給増加や需要の弱含みを背景に下落した一方、脱脂粉乳や全粉乳は、干ばつや不透明な国際情勢を背景とした今後の供給不安から底堅く推移し、全体相場を下支えしたとしている。

（注１）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT「GDT Events Results」

（調査情報部）

アルゼンチン

生乳生産量および主な乳製品の輸出量は前年同期を上回る水準

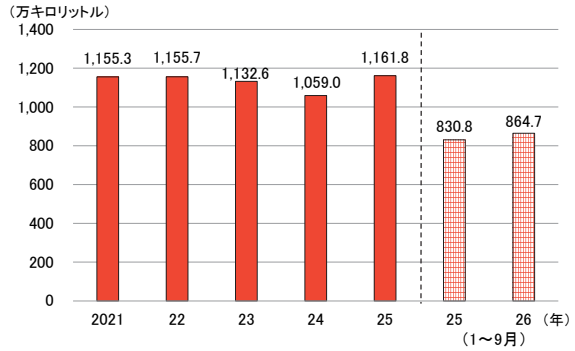
26年１～９月の生乳生産量は前年同期比4.1％増

アルゼンチン経済省によると、2026年１～９月の生乳生産量は約864万7000キロリットル（前年同期比4.1％増）と前年同期をやや上回った（図１）。

米国農務省（USDA）は、好天を背景に牧草の生育が進み、粗飼料供給量の増加により、生乳生産量の増加につながったとしている。

一方で、アルゼンチン乳業チェーン観測所（OCLA）は、26年の生乳生産量の伸びは、年末にかけてのエルニーニョ現象の強度に左右されるとしている。同国の主要酪農地域は平たん地が多く、豪雨に弱い上、多くの酪農場が屋外飼育方式を採用している。このため、エルニーニョ現象が強まった場合には、洪水によって搾乳作業や集乳に支障が生じるほか、乳牛の蹄（ひづめ）の健康被害が増加するなど、生乳生産に影響を及ぼす可能性がある。

図１　生乳生産量の推移



資料：アルゼンチン経済省

26年１～９月の主な乳製品の輸出量は前年同期を上回る

2026年１～９月の主な乳製品の輸出量については、全粉乳（前年同期比9.6％増）、チーズ（同27.3％増）、ホエイ（同10.4％増）およびバター（同約２倍）のいずれも前年同期を上回った（表１）。

表１　主な乳製品の品目別輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年	24年	25年	前年比（増減率）	25年（１～９月）	26年（１～９月）	前年同期比（増減率）
全粉乳	96,221	111,917	134,629	20.3%	82,242	90,099	9.6%
チーズ	64,029	78,222	73,811	▲5.6%	53,272	67,807	27.3%
ホエイ	39,613	44,625	45,998	3.1%	33,900	37,418	10.4%
バター	5,625	4,270	4,861	13.8%	2,644	5,155	95.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：0402.21/0402.29、チーズ：0406、ホエイ：0404、バター：0405。
注２：製品重量ベース。

輸出量の多い乳製品について、輸出先別に見ると、全粉乳およびチーズはブラジル向けが最大で、両品目とも輸出量全体の７割弱を占めている。26年１～９月の同国向け輸出量は、全粉乳が６万1783トン（同33.0%増）、チーズが４万5586トン（同37.0%増）と、いずれも前年同期を大幅に上回った（表２）。USDAは、生乳生産量の増加に加え、ブラジルの堅調な輸入需要が、これらの輸出量全体の増加をけん引するとみている。

表２　全粉乳およびチーズの主な輸出先別輸出量

（単位：トン）

国名	全粉乳			国名	チーズ		
	2025年（1～9月）	26年（1～9月）	前年同期比（増減率）		25年（1～9月）	26年（1～9月）	前年同期比（増減率）
ブラジル	46,444	61,783	33.0%	ブラジル	33,277	45,586	37.0%
アルジェリア	34,292	24,388	▲28.9%	チリ	13,903	13,382	▲3.7%
ベネズエラ	0	1,925	－	パラグアイ	2,305	3,058	32.6%
コロンビア	0	627	－	ペルー	1,026	1,771	72.6%
コートジボワール	0	424	－	ウルグアイ	415	1,086	161.6%
その他	1,505	952	▲36.8%	その他	2,346	2,924	24.6%
合計	82,242	90,099	9.6%	全体	53,272	67,807	27.3%

資料：「Global Trade Atlras」
注１：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：0402.21/0402.29、チーズ：0406。
注２：製品重量ベース。

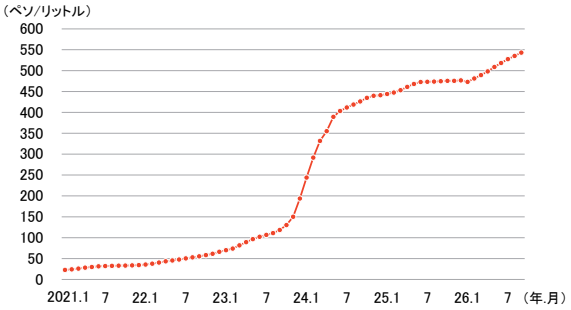
生産者乳価は上昇傾向ながら、過去のインフレ圧力により収益性は圧迫

アルゼンチン経済省によると、2026年の生産者乳価は、年明け以降上昇傾向で推移しており、同年９月には１リットル当たり543.01ペソ（54円：１ペソ＝0.10円(注)、前年同月比14.4%高）と前年同月をかなり大きく上回った（図２）。

一方で、OCLAは、生産者乳価はインフレ率と同じようなペースで上昇しているものの、その上昇率が１年以上にわたりインフレ率を下回ってきたことから、生産者の収益性は依然として圧迫されているとしている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図２　生産者乳価の推移



資料：アルゼンチン経済省
注：図中の最新マーカーは、2026年９月１リットル当たり543.01ペソを示す。

（調査情報部）

飼料穀物

世　界

26/27年度の期末在庫は、前月から上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農務局（USDA/FAS）は2026年10月９日、26/27年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は、12億9375万トン（前年度比2.8%減）と前月から280万トン上方修正された。EUやメキシコなどの下方修正を米国の上方修正が上回ったことによる。

輸入量は、世界全体で２億338万トン（同2.5%増）と前月から27万トン上方修正された。主要国は据え置かれたものの、エジプトなどの上方修正が行われたことによる。

消費量は、世界全体で13億2047万トン（同0.1%増）と前月から24万トン上方修正された。EUやメキシコの下方修正を米国やエジプトなどの上方修正が上回ったことによる。なお、前月に引き続き生産量を上回るとされている。

輸出量は、世界全体で２億1072万トン（同2.4%減）と前月から64万トン上方修正された。米国の上方修正が行われたことによる。

この結果、期末在庫は、２億8044万トン（同8.7%減）と前月から834万トン上方修正された。生産量および輸入量の上方修正が消費量および輸出量の上方修正を上回ったことによる。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2026年10月９日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名		2024/25年度	25/26年度（推計値）	26/27年度		
				（９月予測）	（10月予測）	前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	4,479	3,940	4,882	5,322	35.1%
	生産量	37,827	43,090	40,133	40,728	▲5.5%
	輸入量	55	80	64	64	▲20.0%
	消費量	31,124	33,078	32,780	33,034	▲0.1%
	輸出量	7,297	8,711	8,319	8,382	▲3.8%
	期末在庫	3,940	5,322	3,979	4,697	▲11.7%
ブラジル						
	期首在庫	735	1,060	1,480	1,480	39.6%
	生産量	13,600	14,100	13,900	13,900	▲1.4%
	輸入量	176	170	180	180	5.9%
	消費量	9,250	10,050	10,200	10,200	1.5%
	輸出量	4,201	3,800	4,300	4,300	13.2%
	期末在庫	1,060	1,480	1,060	1,060	▲28.4%
アルゼンチン						
	期首在庫	246	530	471	571	7.7%
	生産量	4,900	6,400	5,500	5,500	▲14.1%
	輸入量	1	1	1	1	0.0%
	消費量	1,710	1,860	1,770	1,770	▲4.8%
	輸出量	2,907	4,500	3,800	3,800	▲15.6%
	期末在庫	530	571	401	501	▲12.3%
ウクライナ						
	期首在庫	54	84	285	292	247.6%
	生産量	2,680	3,090	3,180	3,180	2.9%
	輸入量	2	2	1	1	▲50.0%
	消費量	650	660	720	720	9.1%
	輸出量	2,002	2,224	2,200	2,200	▲1.1%
	期末在庫	84	292	546	553	89.4%
ＥＵ						
	期首在庫	726	615	595	615	0.0%
	生産量	5,959	5,690	5,060	4,800	▲15.6%
	輸入量	1,876	2,000	2,350	2,350	17.5%
	消費量	7,670	7,460	7,340	7,100	▲4.8%
	輸出量	276	230	160	160	▲30.4%
	期末在庫	615	615	505	505	▲17.9%
中国						
	期首在庫	21,119	19,193	17,715	17,715	▲7.7%
	生産量	29,492	30,124	30,700	30,700	1.9%
	輸入量	182	400	500	500	25.0%
	消費量	31,600	32,000	32,400	32,400	1.3%
	輸出量	0	2	2	2	0.0%
	期末在庫	19,193	17,715	16,513	16,513	▲6.8%
世界計						
	期首在庫	31,382	29,564	30,138	30,716	3.9%
	生産量	123,498	133,062	129,095	129,375	▲2.8%
	輸入量	18,655	19,838	20,311	20,338	2.5%
	消費量	125,316	131,910	132,023	132,047	0.1%
	輸出量	18,758	21,596	21,008	21,072	▲2.4%
	期末在庫	29,564	30,716	27,210	28,044	▲8.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月/アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部）

生産量、消費量ともに上方修正、大豆期末在庫は微減の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農務局（USDA/FAS）は2026年10月９日、26/27年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は４億4270万トン（前年度比3.1％増）と前月から35万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは１億

表　主要国の大豆需給見通し（2026年10月９日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名		2024/25年度	25/26年度（推計値）	26/27年度		
				（９月予測）	（10月予測）	前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	932	884	885	858	▲2.9%
	生産量	11,905	11,597	12,342	12,415	7.1%
	輸入量	81	61	68	68	11.5%
	消費量	6,655	7,200	7,566	7,566	5.1%
	輸出量	5,150	4,124	4,586	4,613	11.9%
	期末在庫	884	858	843	857	▲0.1%
ブラジル						
	期首在庫	2,976	3,769	3,769	3,788	0.5%
	生産量	17,250	18,050	18,600	18,600	3.0%
	輸入量	73	105	80	100	▲4.8%
	消費量	5,816	6,250	6,500	6,500	4.0%
	輸出量	10,314	11,446	11,800	11,800	3.1%
	期末在庫	3,769	3,788	3,689	3,728	▲1.6%
アルゼンチン						
	期首在庫	2,405	2,467	2,407	2,367	▲4.1%
	生産量	5,111	4,930	5,000	5,000	1.4%
	輸入量	632	750	650	650	▲13.3%
	消費量	4,324	4,300	4,300	4,350	1.2%
	輸出量	787	890	645	645	▲27.5%
	期末在庫	2,467	2,367	2,447	2,407	1.7%
中国						
	期首在庫	4,331	4,449	4,436	4,436	▲0.3%
	生産量	2,065	2,090	2,100	2,100	0.5%
	輸入量	10,800	11,300	11,500	11,500	1.8%
	消費量	10,350	10,900	11,100	11,100	1.8%
	輸出量	7	13	10	10	▲23.1%
	期末在庫	4,449	4,436	4,426	4,426	▲0.2%
世界計						
	期首在庫	11,510	12,597	12,527	12,493	▲0.8%
	生産量	42,811	42,919	44,235	44,270	3.1%
	輸入量	17,915	18,853	19,042	19,082	1.2%
	消費量	35,916	37,584	38,522	38,571	2.6%
	輸出量	18,433	18,642	19,158	19,200	3.0%
	期末在庫	12,597	12,493	12,402	12,428	▲0.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

8600万トン（同3.0%増）と前月から据え置かれた。これに次ぐ米国は、単収の引き上げ（前月の１エーカー当たり52.8ブッシェル〈１ヘクタール当たり3.55トン(注)〉から同53.8ブッシェル（同3.62トン(注)））により１億2415万トン（同7.1%増）と前月から73万トン上方修正されたものの、インドやEUの下方修正が米国の上方修正の一部を相殺した。

輸入量は、世界全体で１億9082万トン（同1.2%増）と前月から40万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は１億1500万トン（同1.8%増）と前月から据え置かれたものの、ブラジルが前月から20万トン上方修正された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億8571万トン（同2.6%増）と前月から49万トン上方修正された。このうち、世界最大の消費国である中国のほか、米国、ブラジルが前月から据え置かれたものの、アルゼンチンが前月から50万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で１億9200万トン（同3.0%増）と前月から42万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から据え置かれたものの、これに次ぐ米国が前月から27万トン上方修正されたほか、ナイジェリアも上方修正された。

期末在庫は、世界全体で１億2428万トン（同0.5%減）と前月から26万トン上方修正されたものの、前回予測に引き続き前年度比ではわずかな減少が見込まれている。

なお、今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した26/27年度の同国の大豆輸入量9550万トンとUSDAの予測には、引き続き1950万トンの乖離（かいり）がある。

（注）１ブッシェルを約27.215キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（調査情報部）

米　国

米国の期末在庫は、前月から上方修正も前年度に比べかなり大きく減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年10月９日、26/27年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

生産量は、単収が前月から上方修正されたものの、160億3400万ブッシェル（４億728万トン(注1)、前年度比5.5%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。

消費量は前月から上方修正され、130億500万ブッシェル（３億3034万トン、同0.1%減）と前年度並みが見込まれている。

輸出量は前月から上方修正され、33億ブッシェル（8382万トン、同3.8%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、18億4900万ブッシェル（4697万トン、同11.7%減）と前年度からかなり大きく減少すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）も、11.3%（同1.4ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり

4.70米ドル（745円。１キログラム当たり29円：１米ドル＝158.54円(注2)、同13.0%高）と前年度からかなり大きく上昇すると見込まれている。

なお、米国農務省全国統計局（USDA/NASS）によると、26年10月25日時点のトウモロコシ主要生産18州(注3)の作柄割合(注4)は「Good」が43%、「Excellent」が13%の計56%と前月同時期に比べ１ポイント下回った。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。
（注３）コロラド州、イリノイ州、インディアナ州、アイオワ州、カンザス州、ケンタッキー州、ミシガン州、ミネソタ州、ミズーリ州、ネブラスカ州、ノースカロライナ州、ノースダコタ州、オハイオ州、ペンシルベニア州、サウスダコタ州、テネシー州、テキサス州、ウィスコンシン州の18州。
（注４）「Very Poor」、「Poor」、「Fair」、「Good」、「Excellent」の５段階評価。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2026年10月９日米国農務省公表）

区分	－単位－	2024/25年度	25/26年度（推計値）	26/27年度				前年度比（増減率）
				（９月予測）	（10月予測）	参考（換算値）		
作付面積	（万エーカー）	9,090	9,870	9,680	9,680	3,917	（万ヘクタール）	▲1.9%
収穫面積	（万エーカー）	8,300	9,090	8,850	8,850	3,582	（万ヘクタール）	▲2.6%
単収	（ブッシェル/エーカー）	179	187	179	181	11	（トン/ヘクタール）	▲2.8%
期首在庫	（万ブッシェル）	176,300	155,100	192,200	209,500	5,322	（万トン）	35.1%
生産量	（万ブッシェル）	1,489,200	1,696,400	1,580,000	1,603,400	40,728	（万トン）	▲5.5%
輸入量	（万ブッシェル）	2,200	3,100	2,500	2,500	64	（万トン）	▲19.4%
総供給量	（万ブッシェル）	1,667,700	1,854,600	1,774,700	1,815,400	46,113	（万トン）	▲2.1%
国内消費量	（万ブッシェル）	1,225,300	1,302,200	1,290,500	1,300,500	33,034	（万トン）	▲0.1%
飼料等向け	（万ブッシェル）	543,700	611,900	595,000	600,000	15,241	（万トン）	▲1.9%
食品・種子・その他工業向け	（万ブッシェル）	681,600	690,300	695,500	700,500	17,793	（万トン）	1.5%
うちエタノール向け	（万ブッシェル）	543,700	554,700	560,000	565,000	14,352	（万トン）	1.9%
輸出量	（万ブッシェル）	287,300	342,900	327,500	330,000	8,382	（万トン）	▲3.8%
総消費量	（万ブッシェル）	1,512,600	1,645,100	1,618,000	1,630,500	41,416	（万トン）	▲0.9%
期末在庫	（万ブッシェル）	155,100	209,500	156,700	184,900	4,697	（万トン）	▲11.7%
期末在庫率	（%）	10.3	12.7	9.7	11.3			1.4ポイント減
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	4.24	4.16	4.80	4.70	29.33	（円/kg）	13.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は各年９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。
注３：換算値は端数処理の関係で表１と一致しない場合がある。

（調査情報部）

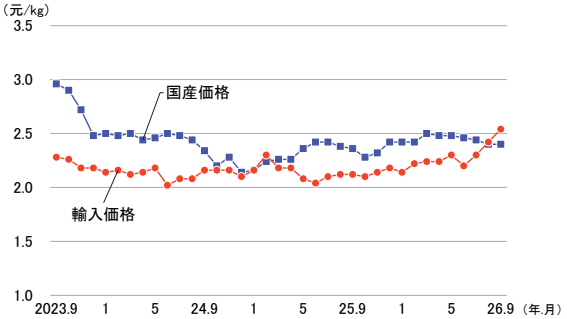
中　国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年９月の国産トウモロコシ価格は前月同

中国農業農村部は2026年10月19日、「農産物需給動向分析月報（2026年９月）」（以下「月報」という）を公表した。この中で、同年９月の国産トウモロコシ価格は前月同とされた（図１）。同月のトウモロコシ需給については、１）在庫は高水準にあり、２）加えて新穀の出荷が進み、市場への供給量は増加した一方、３）末端需要は全体的に低調であったーとしている。今後の見通しについては、新穀の出荷が本格化して供給量が増加する一方で、飼料向け需要が高水準にあることに加え、備蓄による価格調整政策の下支えもあり、短期的な国産トウモロコシ価格の下落余地は限定的であると見込まれている。

図１　トウモロコシ価格の推移



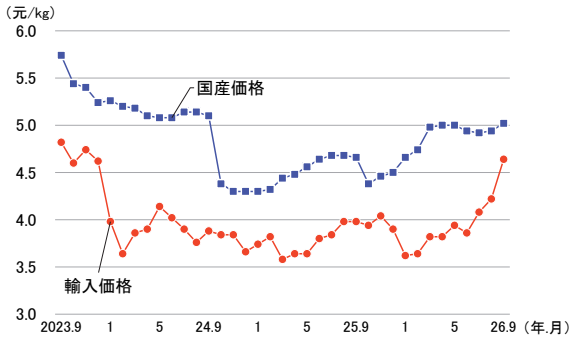
資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み２級黄トウモロコシ価格。
注２：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し２級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

同月の輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着価格は、１キログラム当たり2.54元（61円：１元＝23.97円(注)、前月比5.0%高）とやや上昇した。一方で、国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.40元（58円、前月同）となり、輸入価格が上昇する中で国産価格が横ばいで推移したことから、先月18カ月ぶりに逆転した輸入と国産の価格差は拡大した。

26年９月の国産大豆価格は前月からわずかに上昇

月報によると、2026年９月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図２）。同月の大豆需給について、月報は、東北部産新穀の収穫・出荷が進んだ一方で、１）農家が売り控えたこと、２）食品加工企業の在庫補充に伴いたんぱく質含有量が多い高品質な大豆の供給がひっ迫したことーにより、価格が上昇したとしている。今後、短期的な国産大豆価格は、新穀の出荷が進み供給量が増加する一方で、気温低下に伴い大豆製品の消費回復が見込まれることから、全体として安定基調からやや強含みで推移すると見込まれている。

図２　大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、山東省入荷価格。
注２：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

同月の各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、１キログラム当たり4.72元（113円、前年同月比15.6%高）と前年同月比でかなり大きく上昇し、前月比でもわずかに上昇した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.02元（120円、同8.0%高）と前年同月比でかなりの程度上昇し、前月比でもわずかに上昇した。一方で、輸入大豆価格は同4.64元（111円、前月比10.0%高）とかなりの程度上昇したことで、価格の上昇幅は輸入が国産を上回り、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する中国の大豆輸入量は、前年をわずかに上回る水準となっている。26年（１～８月）の輸入量は、7440万1500トン（前年同期比1.5%増）と前年同期からわずかに増加した。また、輸入額は、同8.6％増の353億9800万米ドル（５兆6120億円：１米ドル＝158.54円）とかなりの程度増加したと報告されている。主な輸入先は、ブラジル（総輸入量の74.1%）、米国（同14.7%）、アルゼンチン（同6.8%）である。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年10月末TTS相場。

（調査情報部）